

# 日刊建設工業新聞

発行所 ©日刊建設工業新聞社 2013 〒105-0021 東京都港区東新橋2-2-10 電話03(3433)7151 URL:http://www.decn.co.jp/

2013年(平成25年) 2月21日(木曜日) (12)

# 知 廣 受 日 新 新 聞



## 竹林 征三

富士常葉大学名誉教授  
山口大学時間学研究所客員教授

福島第1原発事故以来、日本のマスコミは連日のごとく原発事故を生起させた東電叩きをして、さらに脱原発に向けてけたたましく世論を煽っている。

見ているのか。

2012年4月20日以来日した英国原子力公社のバーバラ・ジャッジ名誉会長インタビュー記事を読ん

# 日本の原発技術に対する評価

など新興国も引き続き日本の原発を欲しがっている。これが国際的客観的な評価だ。福島第1原発事故で分か

保険制度も一切含めて日本方式が一番安全で優れていると導入することを決めてる。ソ連から独立したりトリアでは、チェルノブイリと同型のイグナリア原発を閉鎖したが、それ以降ロシアから天然ガスの輸入に依存し電力料金が値上がりしたので原発計画を推進することになった。グビリウス

を表明している。12年、ウラジオストークで開催されたアジア太平洋経済協力会議(APEC)は、「原子力の安全利用の支援」が盛り込まれた首脳宣言を採択した。域内経済は中国などが牽引し、11年までの10年間で国内総生産(GDP)が約2倍になるなど急成長し、それに伴いエネルギー需要

を喪失しても絶対に大丈夫な次世代型原子炉「AP1000」の開発に日本の最高技術の支援を受けて乗り出した。日本の原発技術は世界最高水準であることを多くの日本人は知らない。たとえば日本の原発の非常停止は運転7000時間当たり0.07回と驚異的に少ない。アメリカは0.28回、韓国が0.42回、フランスが0.59回、スウェーデンが0.97回。また原子炉の一番高い品質が求められている圧力容器は日本の鉄鋼メーカーが全世界の8割のシェアを占めている。

原発技術について最も高いノウハウを蓄積してきた電力会社や東芝、日立、三菱各社の専門家の意見を聞くこともしない。それら真の原発の専門家の意見を封じた上で、原発についての素人ばかりを集めて放射能が恐ろしい、原発はない方がいい、脱原発とヒステリックに騒いでいる。これを世界の原発の専門家はどう

だ。福島第1原発事故をどう感じるかとの質問に対し、「ただ、あれだけの地震・津波でも建屋は残った。英国では事故後、原発反対派でさえ日本の技術力やプラントの頑強性を高く評価するようになった。ベトナム

つた事は何か。あれだけの過酷な想定をはるかに超す地震や津波の外力を受け、さらに電源喪失という事態に陥っても、チェルノブイリのような悲惨なレベルにならなかった。日本の原発技術が世界一であるということにある。

20年頃から4基の原発の運転開始を目指しているベトナムでは、原発本体だけでなく原発事故に備える

首相は、日立の改良型沸騰水型軽水炉(ABWR)は「最高の品質が保証されている唯一の原発だ」と太鼓判を押ししている。一方ロシアの国境近くにロシアが建設予定の原発計画については「ロシアの原発は安全性について国際基準を満たしていない。それにロシアとベラルーシ政府は欧州基準のストレステストも実施していない」と深い懸念

も急増しており、米国、ロシア、中国、ベトナムなどが相次いでいる。世界の原発技術をリードしてきた東芝、日立、三菱の最有力トップ原発メーカー3社を抱える日本の役割が大きく期待されている。一方、米国は日本が原発対応でモタモタしているのを見るに見かねて、福島事故の教訓から学び、全電源

所  
論  
諸  
論

20年頃から4基の原発の運転開始を目指しているベトナムでは、原発本体だけでなく原発事故に備える

首相は、日立の改良型沸騰水型軽水炉(ABWR)は「最高の品質が保証されている唯一の原発だ」と太鼓判を押ししている。一方ロシアの国境近くにロシアが建設予定の原発計画については「ロシアの原発は安全性について国際基準を満たしていない。それにロシアとベラルーシ政府は欧州基準のストレステストも実施していない」と深い懸念

も急増しており、米国、ロシア、中国、ベトナムなどが相次いでいる。世界の原発技術をリードしてきた東芝、日立、三菱の最有力トップ原発メーカー3社を抱える日本の役割が大きく期待されている。一方、米国は日本が原発対応でモタモタしているのを見るに見かねて、福島事故の教訓から学び、全電源

も急増しており、米国、ロシア、中国、ベトナムなどが相次いでいる。世界の原発技術をリードしてきた東芝、日立、三菱の最有力トップ原発メーカー3社を抱える日本の役割が大きく期待されている。一方、米国は日本が原発対応でモタモタしているのを見るに見かねて、福島事故の教訓から学び、全電源